



2025年3月期（第49期） 決算説明資料 （ FY2025 | 49th Business Year）

2025年5月9日
株式会社フォーカスシステムズ
（証券コード：4662）

1	決算サマリー	P.3
2	セグメント別概況	P.4～
3	財務状況等	P.8～
4	トピックス	P.11～
5	業績・配当予想－2026年3月期（第50期）－	P.13～
6	ご参考	P.17～

売上高・各利益共に、計画を超え過去最高を更新
中期経営計画で収益性向上を掲げる中、人的資本投資を進めた上で、
価格転嫁・業務効率化等により着実に収益を獲得

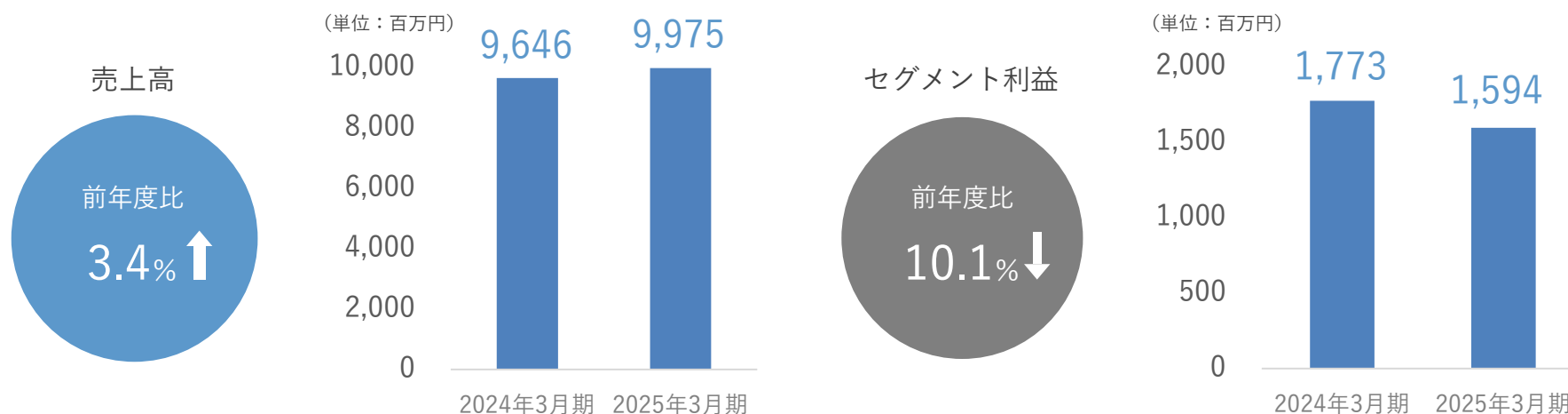
(単位：百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	2025年3月期 実績	前期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	31,509	32,500	32,555	1,045	3.3%	55	0.2%
営業利益	1,974	2,100	2,171	197	10.0%	71	3.4%
経常利益	1,971	2,100	2,164	192	9.8%	64	3.1%
当期純利益	1,406	1,430	1,566	160	11.4%	136	9.6%

公共関連

主に官公庁及び地方自治体を最終ユーザーとする社会インフラ基盤に係るシステムの設計・製造、システム稼動後の運用・保守

全体好調も、前期に利益を押し上げた医療案件等の反動減により、増収減益

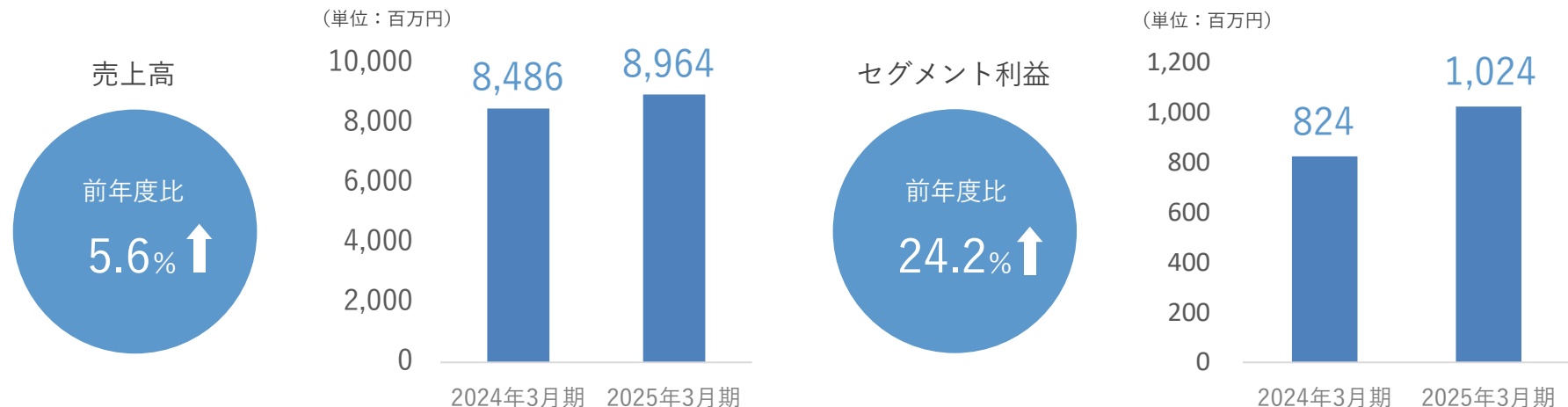


- ・ 社会保障関連を筆頭に、自動車・マイナンバー等既存の公共案件が順調に成長。
- ・ 法人関連案件は維持。セグメント全体で段階的に単価上昇も進む。

エンタープライズ

主に法人企業の基幹業務システム・Webシステムの開発、ネットワーク・インフラの設計・構築、RPAソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

ERP事業で高収益な中小型追加開発案件を着実に取込み、増収増益

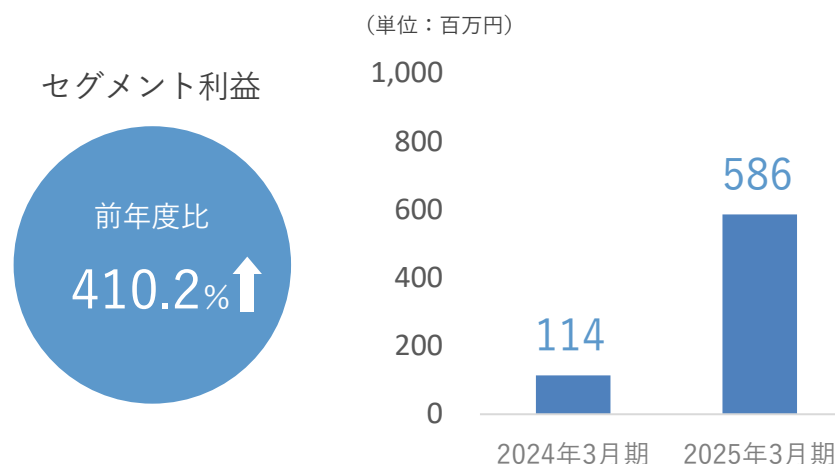
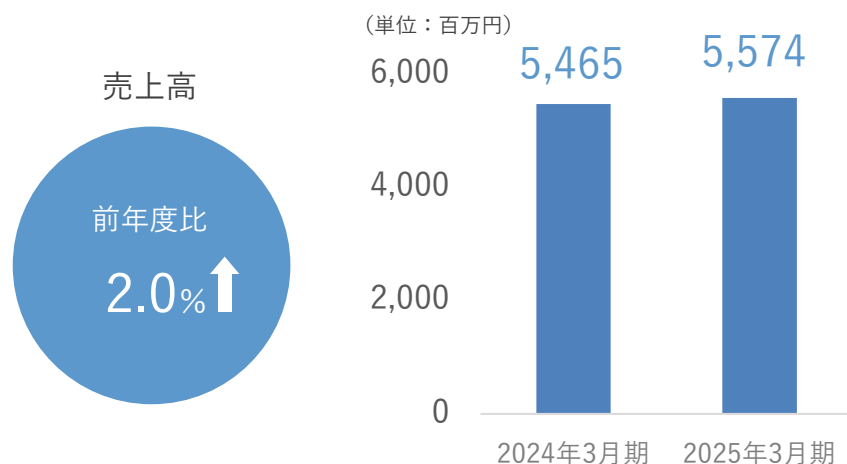


- ・ ネットワーク・インフラ事業が好調。主力製品（intra-mart、Biz f）の開発が利益率向上に貢献。
- ・ ERPで一部競争激化も、蓄積した業務ノウハウに基づく製品導入の最適化提案が奏功し、高採算化が進む。

広域ソリューション

主に東京・名古屋・大阪地域における、通信制御システム開発、組込みシステム開発、民間企業・行政機関向けシステム開発、AIソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

前期の不採算案件の反動増に加え、
高収益案件へのシフトとモニタリングによる品質向上により、増収増益

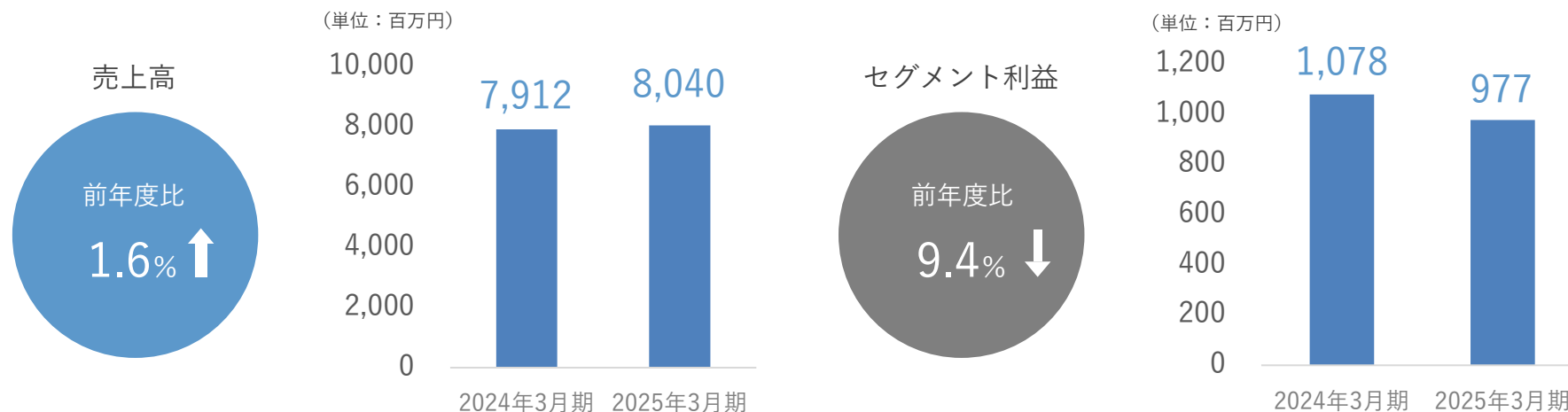


- ・ 前期不採算案件が運用フェーズに入り、一転高収益案件化。
- ・ ローコード案件や組込み関連は堅調を維持。セグメント全体での単価上昇が利益を押し上げ。

イノベーション

主にインフラ基盤設計・構築、メインフレーム業務、システム開発、付随する運用・保守、自社製品の製造、IoTソリューションの提供

インフラ事業が引続き成長した一方で、前期高収益案件の反動減が残り、増収減益



- ・ 前期の反動減の影響が大きく残る中、新規・既存共にインフラ設計・構築案件が引続き好調を維持。
- ・ 自社製品関連は開発・品質向上を進める中、横ばいで推移。引き合いは増加傾向。

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
(資産の部)		
流動資産	13,089	13,584
固定資産	7,900	7,308
有形固定資産	3,548	3,505
無形固定資産	120	48
投資その他の資産	4,232	3,754
資産合計	20,989	20,893
(負債の部)		
流動負債	6,150	5,906
固定負債	1,422	938
負債合計	7,572	6,845
(純資産の部)		
株主資本	11,744	12,751
資本金	2,905	2,905
資本剰余金	2,177	2,188
利益剰余金	7,003	7,996
自己株式	△342	△339
評価・換算差額等	1,672	1,296
純資産合計	13,416	14,047
負債純資産合計	20,989	20,893

前事業年度末と比較し96百万円減少

(主な増加理由)

・現金及び預金の増加 701百万円

(主な減少理由)

・投資有価証券の減少 517百万円
 ・売掛金及び契約資産の減少 131百万円
 ・前払費用の減少 110百万円
 ・ソフトウェアの減少 56百万円

前事業年度末と比較し727百万円減少

(主な増加理由)

・未払金の増加 122百万円

(主な減少理由)

・長期借入金の減少 286百万円
 ・未払法人税等の減少 174百万円
 ・繰延税金負債の減少 156百万円
 ・1年内償還予定の社債の減少 80百万円
 ・契約負債の減少 78百万円
 ・預り金の減少 68百万円

前事業年度末と比較し630百万円増加

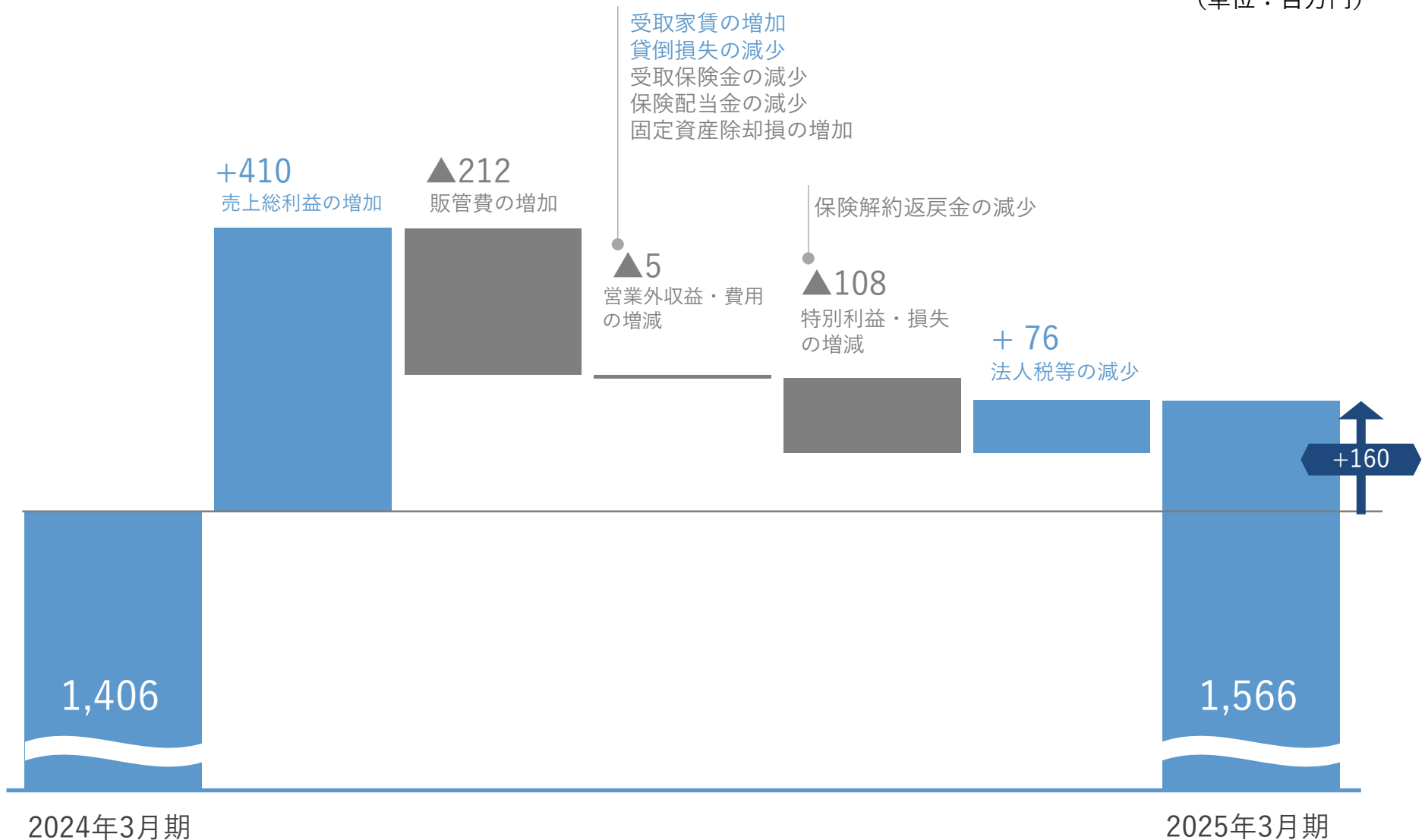
(主な増加理由)

・繰越利益剰余金の増加 992百万円

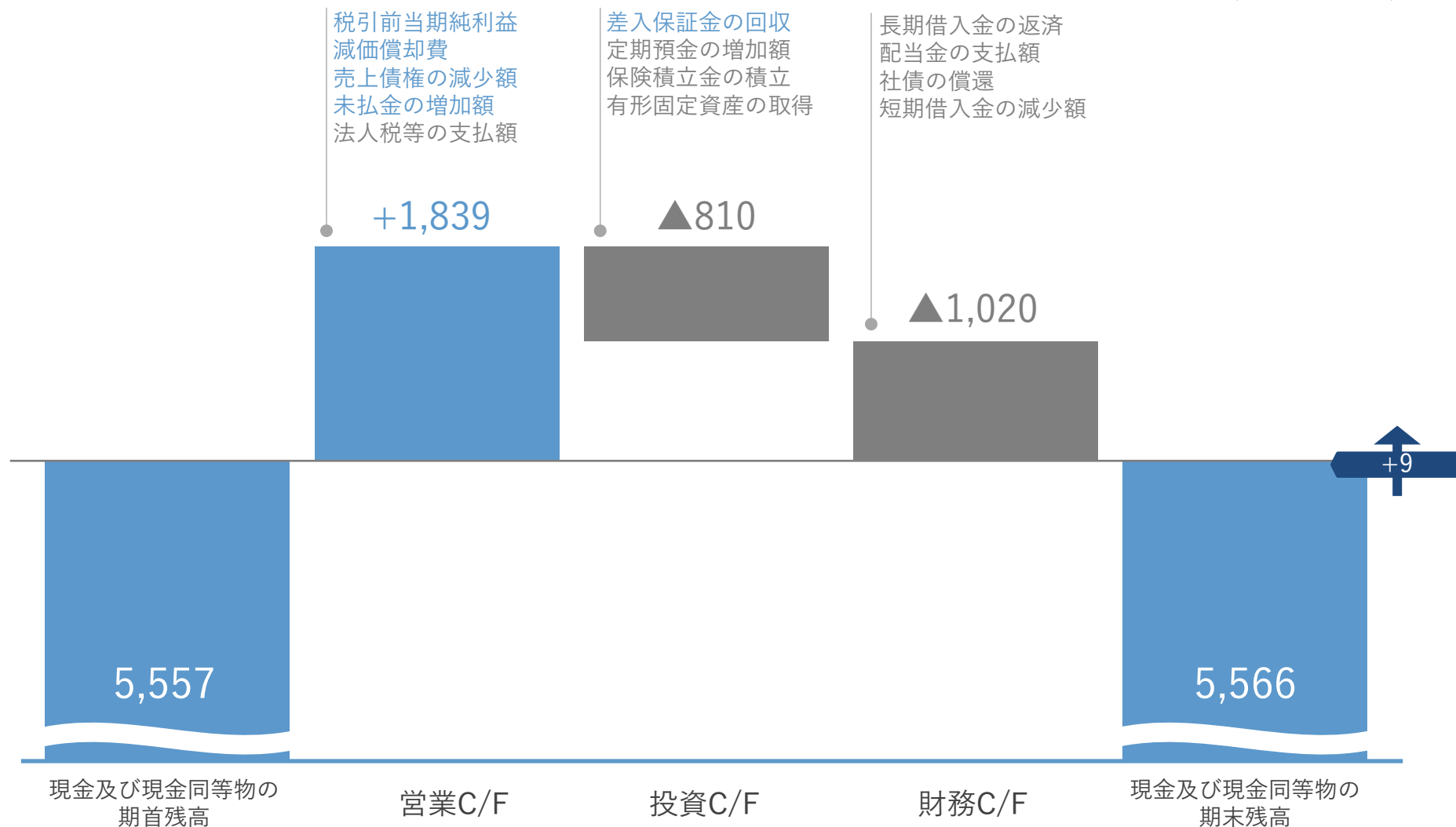
(主な減少理由)

・その他有価証券評価差額金の減少 376百万円

(単位：百万円)



(単位：百万円)





国内初

褥瘡（床ずれ）進行度評価AI技術の特許出願

褥瘡進行度評価AIアプリを開発し、PMDA※承認の取得及び保険適用医療機器として提供することを目指す。

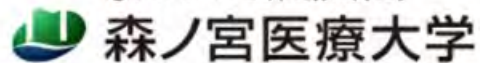
※独立行政法人医薬品医療機器総合機構による、医療現場で使用する医薬品等や日常生活で使用する一般用医薬品等の品質・有効性・安全性の審査。

関連ニュース

- 「第22回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会」に出展
- 本取組みの論文が「Journal of Tissue Viability」に掲載
- 鳥取大学生田医員が「第67回 日本形成外科学会総会・学術集会」にて発表



想いのすべてを、医療の力に。



EXPO2025大阪ヘルスケアパビリオン※
「リボーンチャレンジ」に共同出展

歩行時の足の状態を計測し、ARグラスで「歩行年齢」を
見える化する「Walk Care」アプリ
結果に応じてトレーニングを提案し、加齢に伴う歩行能力の
低下を予防する。

※出展期間：2025/6/17（火）～23（月）

受賞・ パートナー

- ・ こっちこっち®（「BabyTech® Awards 2024」優秀賞）
- ・ Biz ∫®（「Biz ∫ AWARD 2024」Project Award）
- ・ NTTデータ イントラマート（プラチナパートナー）

導入事例

- ・ こっちこっち®（ぷりすくーる西五反田、社会福祉法人小桜会小桜愛児園）
- ・ Biz Connection®（株式会社TS東京）
- ・ intra-mart®（三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社）
- ・ intra-mart Accel Kaiden!（学校法人文化学園）
- ・ SAP S/4HANA® Cloud Public Edition（株式会社CLホールディングス）

メディア掲載

- ・ AI画像×ロボットによる自動気管挿管装置に関する英語論文（Cureus誌）
- ・ こっちこっち®による実証実験等（中国地方テレビ局4局、中国地方新聞3紙）
- ・ intra-mart®の事例紹介（自治体通信Online）

当社公式Webページ「お知らせ」 <https://www.focus-s.com/news>

過去最高の売上・利益を更新予定。



1株当たりの年間配当金は、50.00円（中間配当10.00円＋期末配当40.00円）。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減率
売上高 (百万円)	32,555	33,250	2.1%
営業利益 (百万円)	2,171	2,660	22.5%
経常利益 (百万円)	2,164	2,660	22.9%
当期純利益 (百万円)	1,566	1,880	20.0%

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想
1株当たり当期純利益 (円)	103.67	124.29
1株当たり配当金 (円)	<div> <div>42.00</div> <div> (内訳) 中間配当 6.00 期末配当 36.00 </div> </div>	<div> <div>50.00</div> <div> (内訳) 中間配当 10.00 期末配当 40.00 </div> </div>
配当性向 (%)	40.2	40.2

中期経営計画達成見込み。

「発展・利益・還元サイクルの強化」の通り、株主への還元強化として大幅に増配予定。

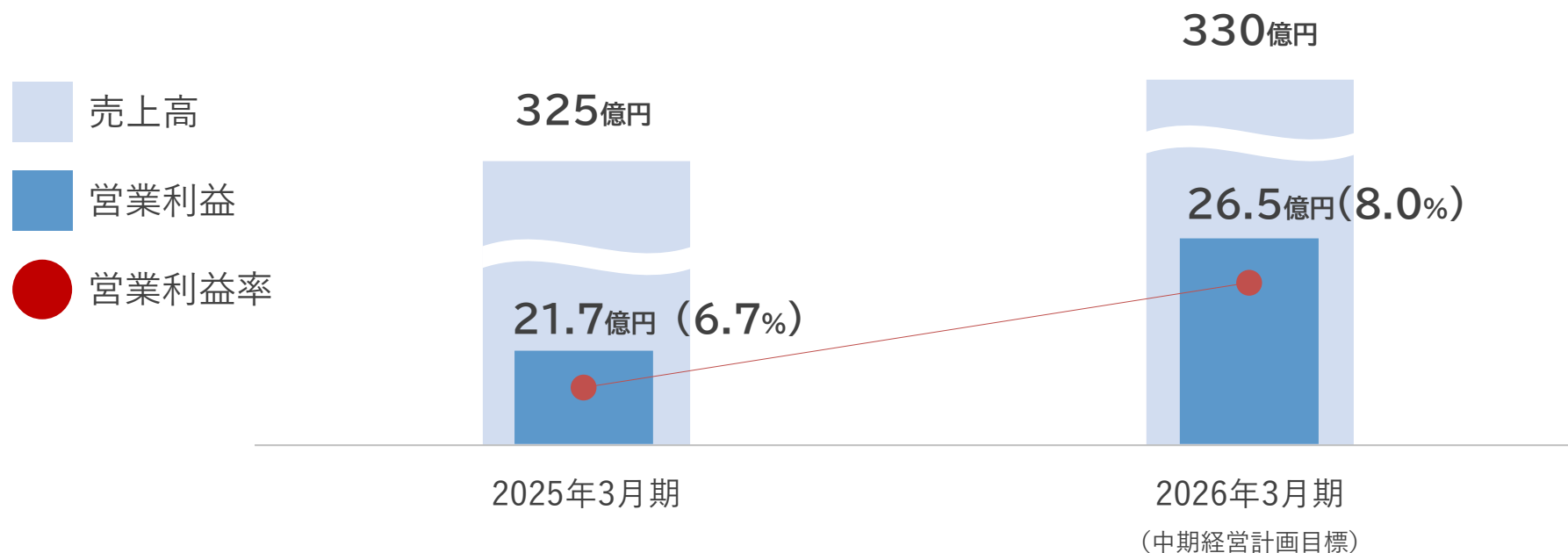
指標		2024年度3月期 (実績)	2025年度3月期 (実績)	2026年度3月期 (目標)
利益目標 	売上高	3 1 5 億円	3 2 5 億円	3 3 0 億円以上
	営業利益額	1 9 . 7 億円	2 1 . 7 億円	2 6 . 5 億円以上
	営業利益率	6 . 3 %	6 . 7 %	8 . 0 %以上
	ROE	1 0 . 7 %	1 1 . 4 %	1 2 . 0 %以上
株主還元 目標 	1株あたり 配当額	3 8 . 0 円	4 2 . 0 円	安定配当を継続 (FY24～26)
	配当性向	4 0 . 8 %	4 0 . 2 %	3 5 ～ 4 0 %

当社が3ヶ年の最終年度で重点を置く3つの方針

高収益案件へのシフト

受注プロジェクトの
高採算化

社員の
エンゲージメント向上



今後とも、ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



テクノロジーに、ハートを込めて。

本資料において、値は小数点以下切捨、割合は小数点第二位で四捨五入としております。

本資料は、2025年5月9日現在で入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2025年5月9日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。従いまして、当社として、その確実性を保証するものではありません。

設立

49年目

※2025年4月1日時点

売上

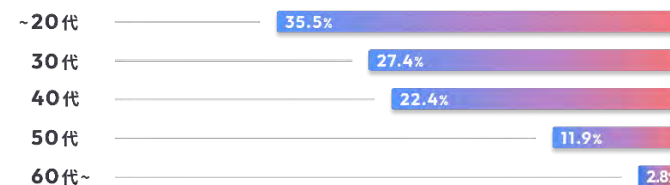
325億

※2025年3月期

年代構成



※2025年3月末時点



従業員数

1,399名

※2025年3月末時点

自己資本比率

67.2%

※2025年3月末時点

資格保有者数(延べ)

※経済産業省や各ベンダー資格など

2,019名

※2025年3月末時点

年間教育研修費

9,800万円

※2025年3月期

年間プロジェクト数

500PJ

※2025年3月期

顧客数

200社

※2025年3月期

最長取引年数

48年

※2025年3月末時点

育休取得率

女性

100%

※2025年3月期

男性

50.0%

育休の復職率

97%

※2025年3月期

平均育休取得期間

女性

356日

男性

155日

※2025年3月期

離職率

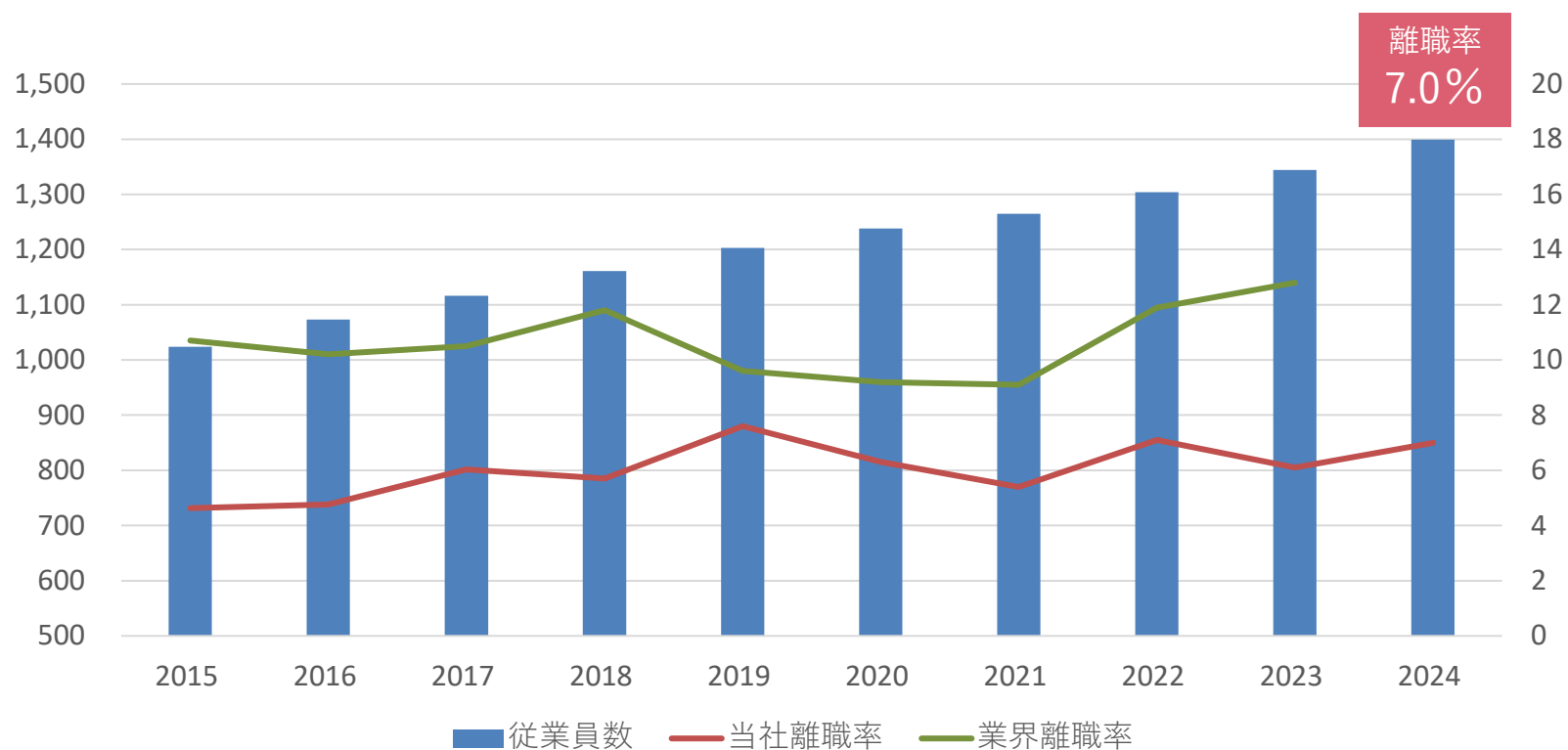
7.0%

※2025年3月期

早期化する新卒採用において、インターンシップや説明会の機会増加と内定後フォローを強化
求職者に向けた情報開示を充実させる等、当社の魅力認知向上・採用時のミスマッチを低減

(単位：人)

(単位：%)



※業界離職率は「雇用動向調査結果の概要」(厚生労働省)より抜粋
※当社離職率は年度、業界離職率は年を基準としている。



6年連続で「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されました。

* 経済産業省および日本健康会議が、優良な健康経営を実践している法人を認定するものです。

1 部活動支援

・・・社員の健康を促進するため、部活動への活動支援を実施。
現在、8つの部活動で約150名の社員が活動中。



2 健康管理セミナー

・・・心身のコンディションを整えるマインドフルネス研修や、食生活改善・肩こり腰痛予防セミナーなど、テーマ別のセミナーを実施。



「メンタルヘルス」対策や
ITSコラボヘルスによる情報発信を
通じた健康への理解促進も実施

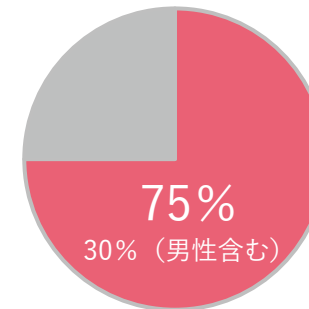
1 短日・短時間勤務制度

…仕事と育児・介護の両立を支援する制度。
短日（週3日）、短時間（1日5または6時間）が選択可能。
※育児は小学校3年生まで、介護は介護事由がなくなるまで可。
※同制度上で、フレックス制度も適用可。

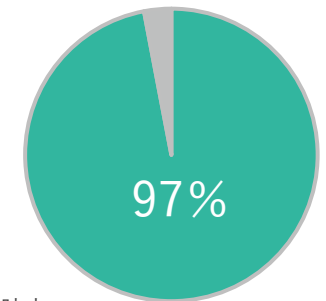
くるみん（次世代育成支援）
認定



育児休業あけ短日・短時間
勤務制度利用率



育児休業取得した社員の
復職率



※2025年3月末時点

2 ジョブリターン制度（再雇用制度）

…ライフイベント（結婚・出産・育児）や
キャリアアップ（留学・転職）を目的として退職した場合、
10年以内であれば再雇用する。

3 フレックス制度

…自分のライフスタイルに合わせた働き方を支援する制度。

1 職域創成

・・・障がい者雇用の新たな職域創成を目指し、水耕栽培による野菜の生産業務を2015年に開始。現在は、千葉県と茨城県に農園を設立し、農業に従事したい障がい者の方の就労を実現しています。



2 女性活躍

・・・女性社員を対象に、働き方などを伝え、キャリアプラン形成のサポートを実施。



えるぼし（女性活躍推進）

女性活躍推進法に基づく優良企業として「えるぼし認定」取得。
「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」
「多様なキャリアコース」の5つにおいてすべての基準を満たし、
3段階目の認定を受けています。

いつも、 そこに、 フォーカス

変わりゆく時代の、中心でありたい。
その強い思いと共に、50年ほど前、フォーカスシステムズのITへの挑戦は始まった。

当時、できることはまだまだ少なく、試行錯誤し、
ただ目の前のことを投げ出さず、必死に技術を磨くことで、少しずつ前に進んできた。

最初は気持ちだけで、突き動かされていたのかもしれない。

「決してあきらめない。」
誰にでも言える、誰もが耳にしたことがある、でも実現は簡単ではないこと。
変わらず、今でも続けていることだ。

この信念を胸に、常に一歩先を見据え、目まぐるしく変わる社会に、対応し続けてきた。
そうやって私たちが携わってきたITシステムは、今では、多くの人に触れるような存在となった。

難題が生じた時は、長年積み重ねたノウハウと、知識、そして、
それらを活かす個性豊かな仲間が化学反応を起こし、新たに導き出した答えと共に乗り越える。

そうして枠を越えることで、常にこれまでの常識にとらわれない、ニューノーマルであることができる。

しかし私たちは無謀なチャレンジはしない。それはすべての人々と共にいる自覚があるから。
ただし、チャレンジはやめない。まだまだ私たちには進化が必要だから。

そうやって「少しずつ積み重ねる」という最高速度で、これからも動き続けることができるのだ。

変わらない旗を持ち続けてきたことで、一人、またひとりと仲間は集まってきた。
家族、友人、仲間、自分自身を含めた、あらゆる人々に焦点を当てる。
みんなが安心できる、なくてはならないITサービスを提供し続ける。

まっすぐ、ブレない。
私たちは大切なコトにフォーカスし続ける会社です。

01



Focus on

Future

常に先を考え、行動する

- ① 展開を見据えた開拓と拡大
- ② 社会の未来への貢献
- ③ 時代の一步先をいくアイデア

02



Focus on

Opportunity

自らの力でチャンスを作り、
そして活かす

- ① チャレンジ精神を伸ばす環境
- ② 現場での決裁力
- ③ 限りない挑戦への土壌

03



Focus on

Character

あらゆる個を尊重し、磨き、
特別なチームとなる

- ① 個の連携で確立された独自のポジション
- ② 顧客の個性との共鳴と伴走
- ③ 社員の強い想いを支え、背中を押す社内体制

04



Focus on

Unlimited

常に自由な発想で創造し、
無限の可能性を生み出す

- ① 蓄積された重厚なノウハウ
- ② 物事を推進し、構築する力
- ③ 無限の選択肢を可能にする創造力

05



Focus on

Stability

安心のために、安定であり続ける

- ① 安定した財政基盤
- ② 多様な課題に寄り添える、柔軟性とキャパシティ
- ③ 積み重ねた信頼感